令和7年2月21日

荒川区立第九峡田小学校
校長 竹下 佳余

学校関係者評価報告書

令和6年度の教育活動の評価結果及び改善方針について、下記のとおり報告します。

記

評価項目1「学校全体の様子」

- 「教育目標・方針」は、昨年度と同様に児童、保護者、教職員の肯定的評価が80%を超えた。教育方針は十分に伝わっていると思われる。
- 「児童・生徒の様子」は、保護者の肯定的評価95%から88%に7ポイント減少した。児童、教員は90%越で高い水準。保護者の意見で「余りあてはまらない」3%、「よく分からない」2%上がったので、児童の様子が伝わるよう発信していく。
- 「基本的生活習慣」は、保護者、教職員の肯定的評価が昨年同様80%を超えている。児童は昨年度から2%上がり、90%となった。指導の成果が数値に表れたと考える。
- 「児童・生徒理解」は、昨年度同様に、児童、保護者、教職員の肯定的評価が80%を超えた。一定の評価を得た。児童の「あまりあてはまらない」が3%改善した。全教職員が児童一人一人と向き合い、それぞれのよさを大切にする指導を継続する。
- 「健康・安全・安心」は、児童の肯定的評価が約90%を占め、保護者と教職員は95%を超えた。今後も児童が安心安全な学校生活を送れるように配慮し、高い評価を目指したい。

評価項目2「学力向上の取組」

- 「分かる授業」は、児童、保護者の肯定的評価が4%、10%減少となった。教員の指導を見直し、今後も教材研究に励む。分かりやすい授業を目指し、情報を発信する。
- 「個に応じた指導」は、肯定的評価が児童92.4%となった改善に向けて、より丁寧な「個に応じた指導」を実施する。よくわからないと答える保護者が多いので指導の実態を知らせる工夫もしていきたい。
- 「学習習慣」は、昨年度と比較し、数値はほぼ同様であった。学習習慣の定着に向けて、寺子屋の活用やICTを使った家庭学習への呼びかけなど、連携した指導を行う。
- 「情報教育」は、児童の数値は昨年度から10%上がり、90.3%となった。今後も、カリキュラムに沿ったタブレットPCやICT機器を活用した授業で情報活用能力を向上させる。
- 「学校図書館の活用」は、昨年度より肯定的評価が児童で微増した。今後も学校司書と連携し、図書館を活用したより良い読書活動や学習を実践する。

評価項目3「社会性・人間性の育成」

- 「人権教育」は、肯定的評価が保護者は昨年度より10ポイント下がったが、児童は微増し、90%と高い数値となった。今後も、児童や教職員の人権感覚を磨いていく。
- 「道徳教育」は児童や保護者の肯定的評価は昨年度とほぼ同値だった。今後も道徳教育に力を入れ、肯定的評価の数値の向上を目指す。
- 「教育相談」は、昨年度と比較し、児童の肯定的評価が増加した。児童と教職員の関わりがよくなった結果であろう。今後も児童の不安や悩みに気付き寄り添える体制を構築し、教育相談活動を進める。
- 「人間関係づくり」は、児童と保護者の肯定的評価のポイントが昨年度同様90%を超えている。これは学校行事や校外学習、体験学習が充実している結果であろう。
- 「自治的な活動」は、児童、保護者の肯定的評価は昨年度からさらに微増し90%を超えた。今後も教職員間でよりよい指導方法を模索し、特別活動を充実していく。

評価項目4「保護者・地域との連携」

- 「情報発信」は、児童も保護者も教職員も、肯定的評価のポイントが昨年度を下回った。スクリーンやメールなどを活用した情報発信は一定の成果を出しているが、HPが課題である。
- 「相談への対応」は、児童の肯定的評価が7ポイント上がった。児童の相談に迅速に対応し、保護者へ逐次状況を説明することを今後も実施する。
- 「学校への参加」は、保護者の肯定的評価が昨年度同様、90%を超えた。授業公開や学校行事を実施できたことや保護者の関心の高さが数値に表れたと考えられる。
- 「地域との連携」は、児童のポイントが低く、また保護者の「分からない」の回答が昨年度と同様に約20%であった。地域と連携した広報活動や児童への呼びかけなど、児童や保護者と地域とのかかわりが増えるよう、工夫していく。
- 「意見の反映」は、保護者の肯定的評価は昨年度よりも低下した。「わからない」と答える児童や保護者も少なくない。今後も、学校がどのように意見を反映させ教育活動を改善しているのか、HPやスクリーンなどを活用して伝えていく。

評価項目5「特色ある教育活動」

- 「俳句学習」は、児童は76.7%、保護者は91%が肯定的評価であった。地域から本取組への賞賛や励ましの声も多数いただいている。苦手意識がある児童への支援も行いつつ、今後も俳句学習を進め、外柵への俳句掲示を継続する。
- 「なかよし班活動」は、児童も保護者も昨年度同様、肯定的評価が高い水準にある。小規模校のよさを生かし、今後も異学年交流活動を充実させ、児童の社会性を育む。
- 「外部講師」は、肯定的評価が児童80%、保護者は90%を超えている。児童への学習面での効果も見られる。今後も外部講師に協力していただき、児童の興味や関心を高めながら児童の学びを深める。
- 「読書活動」は、保護者の肯定的評価は88%となった。一方で児童の肯定的な評価は77.2%であった。読書が苦手な児童も楽しめる活動や児童が読みたい時に本を手にとれる場の工夫をし、読書の楽しさを児童に伝えていく。
- 「体験による学習」は、児童、保護者、教員の肯定的評価が85%を超えた。机上の学習だけではなく、今後も児童が目的意識をもって取り組むことができる活動を工夫し、実践する。

評価結果を受けての学校の改善方針

[1. 学校全体の様子]

児童、保護者の各項目で概ね肯定的評価が8割程度は超えた。昨年度と比較し、「児童・生徒の様子」や「基本的な生活習慣」、「健康・安全・安心」など、肯定的評価がさらに増えた項目もあった。次年度も現在の取組を継続し、児童が安心して学び、主体的に活動できるように、学校長の経営方針である「だれもが安心、成長できる学校校をめざして～自分の大好きを探して～」に基づき、教育活動全般に取り組む。今後も授業力を向上すべく教職員全員で研究活動に取り組み、生活指導を組織的に実行することで、児童が安心して学ぶことができ、一人一人が自己有用感を感じられるようにする。学校行事では各児童が主役となれるような役割分担を計画するために、縦割り班活動の充実を図る。児童同士や教員との信頼関係の構築を大切にし、学び合う環境を創る。また、教員は児童の変化を見逃さず、いじめの未然防止・早期発見・早期対応を行う。家庭とは授業公開や学校行事、保護者会や個人面談、お便りやスクリレ等の連絡を通して児童の成長状況などを共有し、家庭との連携を密にして児童を家庭と共に育てる「共育」を目指す。悩んだり不安を感じたりする児童には、家庭と連携し、特別支援教室やスクールカウンセラーなどの校内体制やスクールソーシャルワーカーや子ども家庭総合支援センターなどの関係諸機関との連携を一層図っていき、児童の成長につながる支援を行う。

[2. 学力向上の取組]

授業内でICT機器を活用した学びを促進しながら、グループ学習による対話的な学びを深めるために発表の機会を授業内容ごとに設定する。教員は個に応じた指導に留意し、各児童の個性や得意とすること、苦手とすることに着目し、一人一人のよさを伸ばせるように指導する。次年度も引き続き校内研修を国語「書くこと」で進める。学びの基礎基本である言語教育について教員が学び、深めることができるよう、国語科の講師を招き実践に基づいた指導を受けることによって教職員の専門性を向上させ、児童の書く力を向上させ、様々な学習活動に汎用できる力の定着を目指す。タブレットPCや図書館を活用した学習活動、体験学習を実施することで、児童が目的意識をもって主体的に学び合い、課題解決しようとする授業を展開する。算数科における習熟度別授業では、個に応じた指導に対応するために、レディネステストを活用した学級編成を継続する。放課後学習「あらかわ寺子屋」では、自学自習のためにタブレットPCを活用し、補習を行う。

[3. 社会性・人間性の育成]

道徳教育に力を入れ、児童が道徳的な価値判断について、自分自身で検討し、判断した結果を行動へと移せるように実践的な題材を授業で取り上げる。教育相談について、児童や保護者がよりよく活用できるように、校内体制を整備する。また、児童との信頼関係を深めるために、スクールカウンセラーによる全員面接を次年度も実施する。研修や校内委員会を通して、教員のカウンセリングマインドも磨き、児童一人一人が心の悩みや心配事を気軽に教員に相談できる学校を目指す。なかよし班活動の一層の充実に向けて、実施回数や内容を計画する。また、校外学習や外部講師とかかわる機会を増やすことで、社会性を身に付け、人間性を高める手立てとする。

[4. 保護者・地域との連携]

家庭と協力して、児童の基本的な生活習慣の確立に向けて協力関係を構築し、共育で児童

を育てる。年間を通して、児童が自身の心と体の健康について関心を高め、自ら健康増進に取り組めるよう、養護教諭や栄養士を中心に、食育を含む健康教育を推進する。また、持久走・縄跳びなどによる体力づくりを計画的に実施することで、児童が運動で健康を増進する機会を学校として確保する。地域の町会・消防団と連携して防災訓練を実施し、地域と協力した防災体制を構築するなど、年間を通して計画的な避難訓練を実施する。

[5. 学校の特色ある活動]

児童の自主性に基づき、自分が感じた興味関心を俳句作成へ生かせるように指導する。また、作品を校外に展示することによって児童や保護者、地域の方々に発信し、児童の学びを充実させる。なかよし班による異学年交流を促進し、児童間の交流を密にすることで、児童相互の関わり合い、学び合いによる信頼関係の構築と上級生のリーダーシップの育成を目指す。俳句や書道、そろばん、水泳指導に加え自然体験学習等においても、外部講師から学ぶ機会を多く設定し、多様な文化や価値について体験的に学ばせる。全教科・活動と関連させたカリキュラムに基づく年間を通した図書館を活用した学習活動や読書活動を実践し、児童が本に親しみ学びを深めることができるようにする。宿泊行事や社会科見学、職業体験や栽培活動などの体験による学習を充実させ、豊かな人間性と自ら学び考える力を育成する。学校全体で児童が安心・安全に過ごすために工夫した教育活動を次年度に生かす。また、新しい感染症が表れた場合にも即座に対応できる体制も維持する。